



「非認知能力の中核となるのが、「あいまいさを楽しむ力」です

汐見稔幸先生（東京大学名誉教授・日本保育学会会長）:人間には、もっとうまくできないかな、こうすればおもしろそうなものができそうだな等、様々な感情を働かせてその行為を興味深く個性的に遂行するという脳の働きがあります。これが非認知能力であり、認知能力の後ろで、認知能力を底深いものにしていきます。「あいまい」というのは、様々なやり方が選べるということで、その選択を楽しむ力が非認知能力なのです。あいまいさを楽しめる子は自分で個性的に考え行動できる子なのです。

どうやって育む? 「あいまいさを楽しむ力」を!

「あいまいさを楽しむ力」は、『何かに没頭し、夢中になること』によって芽生えます。目の前のことに夢中になることで、子どもたちは過程そのものの楽しさを知ることができるのです。例えば、絵本を通して、想像と不思議の世界に没頭することもそのひとつ。バラエティ豊かな絵本の読み聞かせを通して、想像と不思議の世界をたっぷり楽しむことで、非認知能力の土台となる「あいまいさを楽しむ力」は、さらに大きく育っていきます。

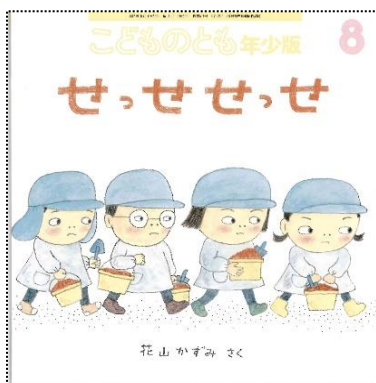
ものがたり絵本	かがく絵本
空想の世界と現実を自由に往復	“不思議”への気づき
子どもたちは、想像力を働かせながら繰り返し物語を楽しむことで、空想の世界と「いま・ここ」の現実を自由に往復することができるようになります。この力は、簡単に答えが出ない場合でも、その時々状況を楽しみながら、未来に希望を抱いて進んでいくための、大きな助けとなるでしょう。	子どもたちは、かがく絵本を通して知らない世界があるということに気づき、その世界を夢中になって探索する喜びを経験します。不思議な事や、分からないこととの出会いを楽しむ経験を積み重ねることで、「あいまいさを楽しむ力」が育まれます。

「育みたい「10の姿」が、絵本には、ぜ～んぶ、たっぷり、つまっています!!

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合	豊かな感性と表現

子どもたちは、絵本の主人公に同化して、わくわく感動したり、未知の世界に出会いイメージをふくらませます。そして、絵本の世界と生活での実体験を結びつけながら、友だちと一緒に想像を膨らませたり、表現したりすることで、創造的な遊びが生まれます。そのような主体的で豊かな遊びを通して、子どもたちは自己を発揮するとともに、友だちと協調しながら「10の姿」につながる幅広い力を培っていきます。

【8月の月間絵本】お家でも、親子で絵本を読んでもくださいね。



すみれ組

ひつじ組



ほし組



幼児期の文字や数字のお勉強は、「絵本を通して」がイチバンです。竜ヶ崎幼稚園の子どもたちは、必要な文字や数字の概念をしっかりと学んでいます。